

うり我身わがをもうり、子孫こゝろともにながくくる

しむ事に候、此義このを能々かんか考え、身持ちを仕る

べく候、まえかど米貳俵のじぶんは少すこしの

ように存じ候えども、年々の利分つもり候えば、かくの

如くに候、扱又何とぞいたし、米を貳俵ほど

もとめ出し候えば、右の利分くわえ、十年目めに米百

拾七俵もち候はば、百姓のために其有徳そのうとくなる事

★能々（よくよく…念には念を入れ、充分に）

有徳（うとく…富裕、裕福）

これなきや

一山方やまかたは山のかせぎ、浦方うらかたは浦のかせぎ、夫々それぞれに

こころを付け、毎日まいにちゆだんなく、身みをおしませ

かせぎ申すべく候、雨風あめかぜ又は煩隙入わづらひまぐり候事も

これあるべき間、かせぎにてもうけ候もの、

むざとつかい候わぬように仕るべき事

一山方・浦方には人居ひとも多く、不慮ふりよなるかせぎも

★山方（やまかた…山間の地方、山村）

浦方（うらかた…海岸地帯、漁村）

隙入（ひまぐり…時間を取られる、手間取る）

不慮（ふりよ…思いがけないこと、意外なこと）